

## 平成27年度 第1回豊岡市学校整備審議会会議録（要旨）

開催日時 平成27年7月23日（木） 15:00～17:00

開催場所 豊岡市役所 7階 第4委員会室

出席者 委員11名

大野委員、中嶋委員、木村委員、田中委員、中村委員、白岩委員、  
中島委員、山下委員、上坂委員、松田委員、小仲委員  
教育長、教育次長、こども教育課長、事務局5名（教育総務課）

欠席委員 委員1名（田原委員）

傍聴者 報道機関1社

1. 開会（進行：教育総務課長）

2. あいさつ（教育長）

学校の整備計画については、合併し平成19年2月に耐震化を対象とした整備計画を立てた。本年度（平成27年度）末で、この耐震化整備が終了する。

今回は経年劣化、老朽度調査を踏まえながら学校の整備をどうしていくかを考えていく必要があり、審議会の大きな検討内容になると思う。

「老朽化してきた校舎を順次建てていけばいいのか」という問題になるかと思うが、やはり財政とかいろんな厳しい面もある。豊岡市の状況を考えた場合、少子化の中で学校をどう整備していくのかという問題も併せて考えていただきながら整備計画を立てていただく必要があると考えている。

さまざまな視点から論議いただき、豊岡市の学校整備計画を皆さんの知恵と力をお借りしながら立てていきたい。

以上、開会にあたってのあいさつにとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 辞令交付（教育長から委員任命辞令の交付、大野委員代表受領）

4. 委員自己紹介（各委員及び関係課、事務局の自己紹介）

5. 会長、副会長の選任

事務局から提案し、全員異議なしで了承された

（会長 大野 裕己 委員、副会長 中嶋洋二郎 委員）

6. 諮問 教育長から大野会長へ諮問書（資料1）を渡す

7. 協議事項（以降の進行は、大野会長）

(1) 学校整備審議会について

※事務局から資料2、3及び名簿により説明（教育総務課主幹）。

資料1（諮問書）の項目内容についても説明

○質問、意見なく以下の点を確認。

- ①審議会の設置：豊岡市学校整備審議会条例第1条の規定により設置
- ②委員構成：12名とする
- ③任期：審議が終了する日（答申書作成完了）まで
- ④業務内容：教育委員会から提出された「諮問書」に対し、「答申書」をまとめる
- ⑤会議の公開と公表：会議の傍聴対応と会議録（要約整理）の市HP掲載
- ⑥今後の審議会スケジュール

(2) 審議項目について

- ①学校規模の現状について  
※事務局から資料4、5、6-1～5、8により説明（教育総務課主幹）  
○質問、意見なし

- ②学校施設の現状について  
※事務局から資料4、資料7-1～2により説明（教育総務課主幹）

《質 疑》

会 長・・改築など老朽化施設対応について国の考え方など分かる範囲で補足説明願いたい。

事務局・・従来であれば年数がくれば建替えが一番理想だと思うが、必要などころを改修し、教育環境の確保も可能な長寿命化の流れがあり、補助制度等もこの流れに沿っている。

○その他、質問、意見なし

■意見交換（会長提案により、各委員発言によるフリートークを実施。）

(A委員)

50年以上で残っている建物が、同じ地域で多いのはなぜか。また、施設整備は古い順番でやっていくのか。

(事務局)

同じ地域に多く残っている理由は、合併以前を含め複合的経緯もあり、具体的理由は把握していない。施設整備については、単純に考えれば経過年数からだが、実際としてはいろいろなところを加味しながら考えていく順番付けになると考えている。

(B委員)

本校はほぼ30人超の1クラス、単学級。30人を超えた場合、これからの学習課題を考えると、かなり子供たちとの距離を感じる。単学級でずっと過ごした場合、多様な意見や多様な考え方、いろんな人との関わりという面では、同じ人間関係で育つデメリ

ットがあるかもしれない。2クラスある方が交流もあっていいと思うが、実際には迷っている。単学級で小規模であるメリット、大規模であるメリット、それぞれある。少し人数は少ない方が良く考えるとところもある。

また、小学校は地域のコミュニティの中心的存在である。地域における小学校の位置を考えると、やみくもに統合は難しいと考える。さらに、学校施設は市の体制として地域防災拠点、避難所になっているため、この点も含めて見通しを考えていくことが必要となる。

規模としてのことを言えば、やみくもに統廃合はなかなか難しいと思うが、地理的条件を考えるととても迷う。ただ、これから子ども達の教育を考えると、人数の適正規模、適正な人数はしっかり守っていかないといけないと思う。

#### (会長)

単学級ですずっと過ごした場合におけるコミュニケーション能力とか育成の難しさは、今後を見通すとあるかもしれない。一方では小学校の地域における拠点性などを含め単純な統廃合の論理になりにくい部分もあり、迷いという言葉でお話いただいた。

また、片方では小規模のメリットもあるので、今後見ていく必要がある。

#### (C委員)

今回は小学校中学校のことが主となるが、幼稚園も廃園、認定こども園、民営化などいろいろな状況にあり、公立の幼稚園も減少している。今後どうなるか不明だが、勤めている者や保護者からも、「寂しい」という意見を聞くことがある。

子どもたちは、複数の学級や、学年二人とか三人とかもある中で、いろんな刺激を貰うことは大事なことだと思う。

自分の地域には合併しなくなった小学校があるが、小学校は地域の大事な存在でもあり、難しい問題だと考えている。

#### (D委員)

学校施設が、例えば木造ならば基準は何年持つのかなど全く分からない。その点についても情報が欲しい。

ある学校ではひとクラスが5人くらいとなっている。スポーツをするにしてもグループでチームでなにかしようと思っても、それが成り立たない様子を見ている。校長先生もチームで行う、動くこと、体育などができないことが悩みですと言われているのを知っている。認定こども園になると、さらにクラスの人数が減ってくる。競い合うこともできず、やはり適正人数がある方が良く、ある程度は欲しいと思っている。

少数でも学年を超えた縦のコミュニケーションや、思いやりを持つとか、地域との関わりを深めることもできるが、同年齢の学習になるとそのあたりが難しい。小学校が地域コミュニティの中心になることも大事にしていかなければいけない。

(E委員)

私は建築の技術的なことを仕事としている。このため、学校規模や学校数について分からない部分もある。ただ、市内総合高校ではあるが、非常勤講師もやっており、ここ10年くらいで生徒数が減ったと感じている。

学校施設が、現段階で50年経過ということは10年経てば当然60年目を迎え、建物としては古くなると当然機能面、構造面の支障が起きる。

具合が悪くなったら建て替えるというのが基本的な考えかと思うが、今、どんな建物でも古くなった建物を壊すのではなく、修繕して使うという動きが一般の個人住宅でもかなりある。

50年、60年経ったものは修繕してもやはり50年、60年経っており、新しいものと全く一緒にはならない。建物の耐用年数が来たらすぐ壊すこともどうかと思う。

片方で、修繕して使う方針もあり、また片方で壊して建て直す方針があってもやむを得ないと思うが、まだ考えがまとまっていない。

(会長)

施設整備について、矛盾する二つの考え方として意見をいただいた。国の指針などを含め、今後協議する課題と思われる。

(F委員)

地域によっては、耐震化を行う前に、統合し新しい小学校を整備した方が良いと思われるところもあったのではないかと思う。

私の地域に既に廃校、統合になった小学校がある。地域の方は、学校はコミュニティの中心として必要だから、なるべく無くして欲しくないと言われていたが、その学校は複式学級があり、さらに複々式に近い状況もあったため、地域のエゴで子どもたちを犠牲にしないとの意見で地域が折れ、隣の地域と統合になったと聞いている。

統合になってから数年後に分譲宅地ができ、子どもの数がすごく増えた。地域の人たちから、もっと早く分譲地ができていれば学校は統合にならなくて済んだのにとの意見が出始めたが、そうではなく隣の大きな学校に行けるようになったから若い人たちもそこに家を建てられた。その辺を勘違いしないようにする必要がある。

市長部局で各地区に公民館を設け、地域住民によるコミュニティづくりの施策に力を入れておられるので、学校が無くなってもコミュニティは問題ないと思う。

(会長)

市のコミュニティ施策を含めた部分についても、この審議会です少し念頭におきながら議論をしていかないといけないと思う。

また、今後求められる子どもたちの力量を考える上で、小規模校がこれまでやってきた良い面、疑義の面を含めしっかり審議する必要がある。

(G委員)

本校は小規模校。外来者に来ていただくと、「いいですね、とっても子どもたちは素直で、気持ちがいい、心が洗われる。」と言われる。少人数なので目が行き届く。しかし、少ない人数の中で話し合いをすると一人の子どもが発言する回数が多いが、話し合いが堂々巡りとなることも多い。もっと多様な意見が欲しいときにやはり人数が欲しいと感じることはある。さらに、音楽や体育など少人数で和気あいあいとして仲が良くていいが、物足りないところもある。

他校と合同で活動することがあるが、指導はしているが、やはり小さい学校の子は自分を出しにくいと感じる。3校で修学旅行、自然学校に行っているが、終わる頃にはとっても仲良くなって、これがひとクラスなんだなと感じている。

本校は元々4校が統合した学校。人数としては欲しい、でもまた今後統合の統合かと考えると地域がどう思われるのか、地域住民の方の理解が得られるのかどうか、悩んでいる。

(H委員)

前回の答申書では、中学校では180人程度、2クラス程度が適正規模と言われているが、豊岡市の中では現在4校しかない状況。かなり校地が広いので、適正規模を確保しようとするれば、さらに広い範囲で生徒を集めなければならない。

今の学校ではバス通はゼロで、自転車通と徒歩通だけとなっており、狭い範囲で学校が成り立つことで、時間の自由もあり非常にありがたいと感じている。しかし、豊岡市では全ての学校で実現できるものではない。これまで統合した学校の様子や、良い点、悪い点などを参考にしながら考えていきたい。

施設は老朽化しているが、耐震化と併せてトイレなどが改修された。新しい学校では生徒も精神的に落ち着いて勉強ができる。きれいな教室で勉強するのと汚れた教室で勉強するのと全然違う。

(I委員)

私の地区も子どもの人数が減ってきており、悩んでおられる保護者も多く、沢山の子どもたちの中でいろんなことを体験させたいとの声が聞こえてくる。それも大切だと思うが、与えられた環境の中でその子自身も生きていく力をつけていくことも重要ではないかとも考えている。

小学校がコミュニティの中心になっているとの話があったが、今の小学校は14年前あたりに統合したと聞いている。詳しいことは分からないが、やはり未だに前の学校の地域の方とじっくりこないこともあると聞いたりするので、何をもって統合するのか、よく考える必要があると思う。

(J委員)

子どもの減少、学校の老朽化など、今まで本当に考えたことがなかった。子どもの人数が減っているのはいったいなぜかという、やはり結婚する人が少なくなっているからだと思う。あと子どもの人数は一人、二人でだいたい決まってきたので、この問題もこれからも多分同じような感じで続いていこうと聞いていた。

(会長)

議論としてはこれからだが、国や豊岡市の状況を含め、今後審議を進める上でも基となる情報をいただいた。

単に年数の経過だけでなく、個別事情や、子ども数の変化を含め、子どもにどのような力量を身につけさせるための環境条件があるかを考えていく必要がある。

検討する過程で、人数の問題はどうしても切り離せない。学級の規模の問題、学校の規模の問題を合わせて考えないと、それを前提にした今後の施設整備の方向性が出てこないと考える。少し長い期間の中で、施設整備の基本的方針を考えるが、状況によっては例外的方針も考えるなど、考え方を小分けしながらの議論もあるのではと考える。

全国では何か工夫できないかとやってきた地域もあるので、私も知り得る情報は出していきたい。また、豊岡で行われてきた小中連携教育などをさらに発展させていくことで問題を解決する検討があってもいいと思う。

(3) その他

・次回審議会の日程等について

日 時 平成27年8月24日(月) 午後3時30分～

場 所 豊岡市民会館 3階 ギャラリー

9 閉会(17:00)

中嶋副会長 あいさつ